



チョウセンタイオウ(生薬名:大黃)タデ科/根莖や根に嚙下、健胃作用。

道修町インフォメーション
ど しょう まち

道修町

第57号

2011年(春)号

発行/道修町資料保存会 TEL 06 (6231) 6958

〒541-0045 大阪市中央区道修町2丁目1番8号(少彦名神社内)

<http://www.kusuri-doshomachi.gr.jp>

くすりの道修町資料館だより

■ テーマ展示

最近「セルフメディケーション」とか「ネット販売」とかの耳慣れない言葉がよく目に入ります。前者は「自己判断での薬物治療」、後者は「インターネットによる販売」といった意味を表しています。

日本はまさに高齢者社会の真ただなかにあります。厚生労働省の諸資料によれば、2007年次は、日本人の平均余命は男79.2歳、女86.0歳で、世界のトップの座にあります。それに伴って、国民医療費は2007年度で3兆4千億円、対前年増加率3.0%で国民総所得の9.1%を占めていることが示されています。将来、日本人の高齢化はますます進むものと考えられ、それに対応した高齢者の幸せな健康生活が求められる限り、国民医療費の更なる増加を抑制する適切な解決策を早い目に講じていくことが必要となります。冒頭に掲げた「セルフメディケーション」とか「ネット販売」とかは、これらの要求に応えるものと考えられます。

家庭薬は「セルフメディケーション」の旗頭



最近高齢者社会への対応を先取りして様々な業界の企業努力が払われています。「セルフメディケーション新生活・安心生活サポート」日本ドラッグストア協会、「e健康ショップ・お取り寄せ薬局システム」全国家庭薬協議会、小冊子『OTC医薬品の上手な使い方』の頒布・セルフメディケーション推進協議会、等が該当します。また厚生労働省「一般用医薬品のリスク区分の検証に関するワーキンググループ(WG)」による「74成分の生薬および動植物成分(生薬成分)について第2類薬から第3類薬へのリスク変更の検討」等は将来の「一般用医薬品ネット販売」を志向した試みと考えられます。



長い歴史の中で培われ使用されてきた家庭薬（伝統薬）のインターネットでの販売や「セルフメディケーション」のサポート等は、高齢化社会を視野に入れた適切な医薬品供給の利便性や医薬品の自己判断による使用法の支援・啓蒙を考慮したものといえます。



■ 道修町ゆかりの人々

「堀江の六人斬り」（明治38年）の巻き添えにあい、道修町高安病院のすぐれた治療により助かった17歳の大石順教尼（松川家妻吉）は、高安季子婦長により励まされて後に尼僧となり、一念発起して口で筆を執り、書や字に励みました。後に仏光院（京都山科）を設立し、に献身しました。

今回は世界身体障害者芸術家協会会員として東洋初の認証を受けた大石順教尼を紹介します。

